

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

マルホ皮膚科セミナー

2011年3月10日放送

第26回日本臨床皮膚科医会総会④企画セミナー

「足も皮膚科医が診る」

国際親善総合病院 皮膚科部長
山田 裕道

はじめに

始めに第26回日本臨床皮膚科医会におきまして神奈川県皮膚科医会に発表の機会をくださった会頭の大路昌孝先生、ならびに東京都皮膚科医会の皆様に御礼申し上げます。さてこの神奈川県皮膚科医会企画セミナー、「足も皮膚科医がみる」は、私たち皮膚科医が積極的に足病変に関わらねばいけないという、ある種の使命感から始まりました。生活習慣病への対応が重要になっている中で、糖尿病に伴う足の病変については数年前から日本医師会や日本糖尿病学会などが、日本糖尿病対策推進会議を組織して啓発活動を行っています。ところがなんと、そのメンバーに皮膚科医が加わっていないのです。循環障害に基づく変化や潰瘍形成などの皮膚病変を、皮膚科以外の医師が正確に評価できるでしょうか？ 私たち神奈川県皮膚科医会は、平成18年2月に神奈川フットケア研究会を発足させ、以来コメディカルを交えた勉強会を毎年開催して啓発に努めてまいりました。手ごたえは十分で、もっともっと皮膚科医が社会にアピールすべきだと思います。

神奈川県皮膚科医会企画セミナー

神奈川県皮膚科医会企画セミナー「足も皮膚科医が診る」は、以下の4部構成で行われました。講演①皮膚科医会会長栗原誠一による企画趣旨説明、講演②医会が行った「足の健康チェック」の活動報告、これはのちほど詳しくお話いたします。講演③野村皮膚科医院院長野村有子による「外来でできるフットケアのコツ」、これは演者のクリニックで行っているフットケア外来の紹介です。具体的には患者さんの足浴、爪の中の角質除去、爪切り、やすり掛け、たこ削り、さらには必要に応じて軟膏処置をおこなうものです。陥入爪に対しては、テーピング固定、ガター法、ワイヤー法、VHO法などを患

者に合わせて選択し、指導しながら実践します。足の変形がある患者には、義肢装具士がシューズカウンセリングをおこない、必要に応じてそれぞれの足にあった医療靴を作っているとのことでした。講演④昭和大学藤が丘病院皮膚科教授末木博彦による「足を診れば分かる全身疾患」。これはまさに糖尿病がその代表疾患であり、糖尿病性水疱、足底線維腫症、糖尿病性潰瘍・壊疽、などが直接デルマトロームであり、間接デルマトロームとしては、足白癬などの皮膚感染症、角質増殖、皮膚乾燥・亀裂・胼胝、靴づれ、創傷の治りにくさ、などが紹介されました。また比較的珍しいところでは、コレステロール塞栓症や結節性結核性静脈炎の足病変が、一部クイズ形式で紹介されました。

「足の健康チェック」活動

さて本日はその内の講演②を担当した私、山田裕道が医会の委員会として浅井寿子、大澤純子、山川有子とともに行った「足の健康チェック」活動の詳細を報告いたします。

まず活動目的です。①足の疾患は皮膚科医が見るという社会への啓発活動。②足の皮膚病患者の発掘、③特に羞恥心のために受診を敬遠している若い女性患者の受診促進、④受診機会に乏しかった、あるいは患者の自覚がなかった足の皮膚病の調査。以上4点について、患者さんの同意を得て診察とアンケートを実施しました。

次に活動方法です。院内待合室に患者啓発用のポスターを掲示し、また同じ内容の小冊子を窓口において、「足の健康チェック」すなわち足の健康診断を受けるよう促します。このポスターは我々医会のオリジナルで、上段に「あなたの足は大丈夫？ あなたの足が健康状態や病気を語りかけています。」と目立つようにキャッチコピーを書きました。ポスターの中段には下腿から足の写真を配置し、9つの吹きだしを設けその中にみずむし、いぼ、うおのめ、ほくろの癌、爪みずむし、巻爪、糖尿病でみられる色素斑などの臨床写真を入れました。患者さんが自分の足をみてこの写真のような皮膚病はありませんか、という趣旨です。ポスターの下段には「当院では足の健康チェックを行っております。ご希望の方は受付にお申し出下さい」と、受診しやすい雰囲気を出しました。足の健康チェックを希望する患者にはまず調査票を渡し、年齢、性別、気になっている足の皮膚病の有無、有の場合はその内容、足の健康チェックで疾患が見つかった時の治療希望の有無、当日の本来の受診目的、その他の調査項目を記入してもらいました。そして、3枚綴りになった1枚目に我々が診察結果を記載して集計に回しました。神奈川県皮膚科医会所属で今回の活動目的に賛同戴いた198の施設が参加し、平成

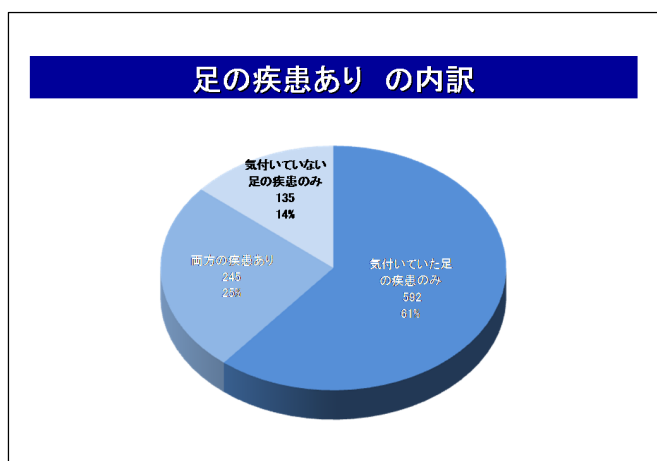
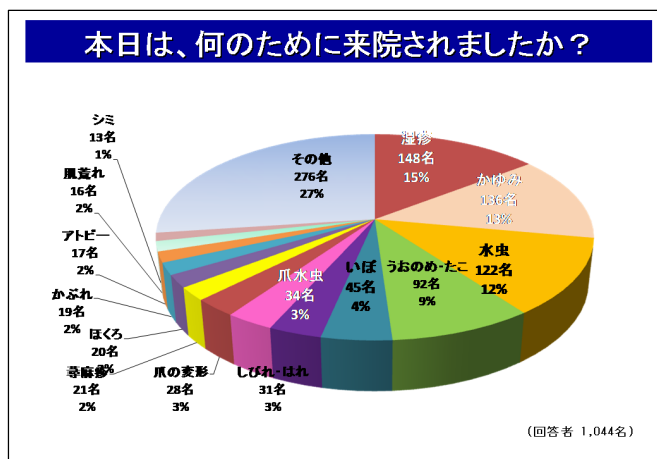
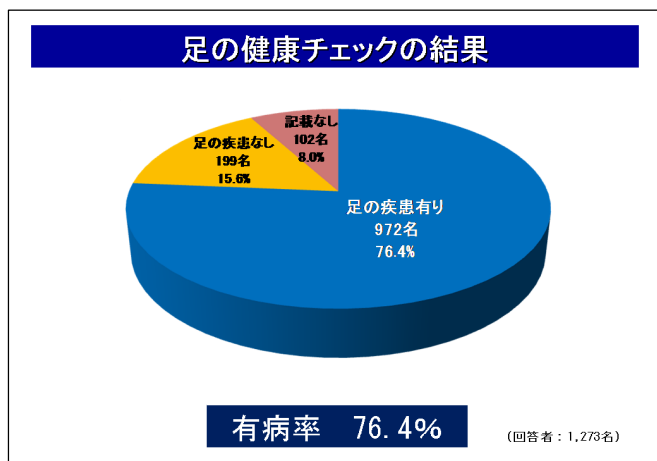


20年4月、同年10月、平成21年4月の3期に分けて各期60日間調査をおこないました。

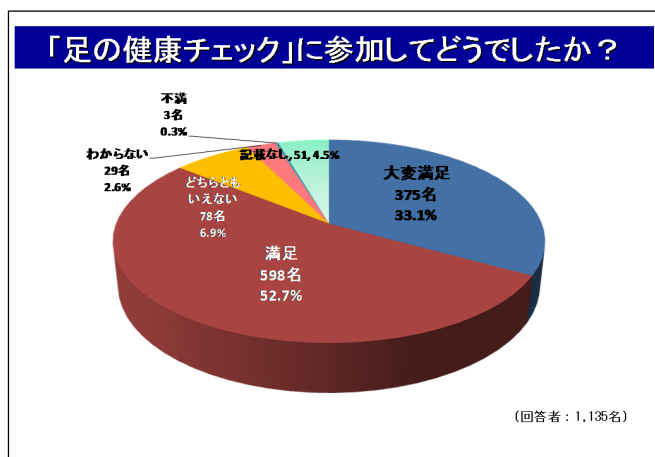
「足の健康チェック」結果

つぎに結果です。足の健康チェック参加患者総数は1273名で、男女比は1:1.7と女性が多く参加しました。性別年齢分布では30代女性が最も多く、以下60代女性、50代女性、70代女性の順でした。1273名の参加者中972名に何らかの足の皮膚病がみつかりました。その内訳は多い順に足白癬21%、鶏眼・胼胝17%、爪白癬17%、湿疹11%、尋常性疣贅6%、陥入爪5%、色素性母斑4%、その他16%でした。この調査における足の皮膚病有病率は76%となりました。この内の61%は自分の足の病変に気付いていましたが、25%は気付いていた病変と気付いていなかった病変の両方があり、14%は自分の足の病変に全く気付いていませんでした。つまり有病者の約4割で、自分が気付いていなかった皮膚病がみつかったということになります。

足の健康チェックで疾患が見つかった時の治療希望ありが46%、治療希望なしが18%でした。本来の受診目的は①湿疹15% ②かゆみ13% ③みずむし12% ④うおのめ・たこ9% ⑤いぼ4% ⑥爪水虫3% ⑦しびれ・はれ3% ⑧爪の変形3% ⑨蕁麻疹2% ⑩アトピー性皮膚炎2%、など非常に多彩でありました。またこの足の健康チェックに参加しての感想は33%の患者が大変満足、52%の患者が満足と回答しました。その内、生の声を2件を紹介します。1件目は「うおのめは治らないと思っていました。削って



戴き、痛みが無くなり、本当にうれしくなりました。ありがとうございました。爪も巻爪になっている気がして自分では切らなかったのですが、先生に切って頂きこちらも感謝しています。」2件目は「たまたま違う症状で受診したのですが、ポスターが貼ってあったので、前から気になっていた足のガサガサの話をしたら診てもらえること



になりました。親切丁寧に診て戴き、もっと早くに受診すればよかったと思いました。また前回ほくろの件で受診した時のフォローもして戴き、大変満足しています。」という内容でした。最後にポスターについての感想ですが、80%の患者さんから「よかった」との評価を戴きました。

まとめ

以上の結果をまとめますと、①足の健康チェック参加者は実施期間合計6か月で1273名でした。②30代、60代の女性が多く参加しました。③足の皮膚病有病率は76%で、順位は1位足白癬、2位鶏眼・胼胝、3位爪白癬でした。④有病者の内の39%で自分で気付いていない足の皮膚病がみつかりました。⑤この活動の患者満足度は85%の患者で満足以上でした。⑥ポスターの印象は80%の患者で良好でありました。

考案 足の健康チェック参加者の76%に皮膚病がみつかり、その内の約4割が病変を自覚していなかったことは、足の皮膚病啓発活動として大きな成果を上げたものと思われれます。若い女性の参加者が多かったことも特筆されます。有病者の40%が白癬であることは、潜在的白癬患者がいまだに多いことを示しています。この調査を通じて、足の皮膚病は皮膚科医が診るという社会への啓発活動は一定の成果を上げることができたと考えています。今後とも私たち皮膚科医は積極的に足の皮膚病の診察と治療にあたっていくべきと考えます。